

私たちはご利用者の生活を支援するために24時間がんばります！

ローゼン Rosen だより

2025年 4月号

<発行元>

社会福祉法人千葉県福祉援護会

〒273-0047

千葉県船橋市藤原 8-17-2

(ホムア・ジ)

<https://engokai.or.jp/>

(メール)

info@engokai.or.jp

進み続ける！「法典サポートネットワーク」

報告：地域共生支援部 上原 博美

福祉の担い手不足が叫ばれる昨今、地域包括支援センターと居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員は、多職種とのネットワークづくりや社会資源の開発などの地域づくりを求められています。主任介護支援専門員の地域活動の場として、平成30年より、法典地区の主任介護支援専門員が実行委員、法典包括が事務局を担い『法典地区多職種ネットワーク』という名称で事例検討会を行っていましたが、4回開催した中で「参加者同士の交流の少なさ」、「話し合った結果が形にならない」等の課題がみえてきました。令和5年より、複合化・複雑化した支援ニーズに対応するため、船橋市で「重層的支援体制整備事業」が始まりました。時を同じく、地域の多職種とのネットワークをより強化していくことを目的に『法典サポートネットワーク』と名称を変更してリニューアルしました。開催にあたって、実行委員と事務局の他、地域ケア会議の構成員にオブザーバーとして参画を依頼し、自治会や地区社協、民生委員等、地域の方々とのつながりを作ることを重視しました。その他、以下の点を意識しました。



- ① 参加事業所の拡大…法典地区で活動する医療・福祉に関係するほぼ全ての事業所に案内を送付し、より多職種がつながることができるように
- ② 顔の見える関係作り…事業所のPRタイムとグループワークでじっくり「聞く」・「話す」時間を設け、お互いを「知る」・「知ってもらう」機会が増えるように
- ③ 回数増…年に2回開催し、顔を合わせる機会を増やすことで、参加者同士の信頼関係の構築につながるように

平成30年に36名の参加で始まった法典地区の集まりは、リニューアルを経て、令和7年2月に3回目の開催となり、ほぼ倍の人数の方々に参加いただけるようになりました。行政職員、行政書士や弁護士等の士業、町の便利屋さん、大学教授等々、少しずつネットワークが広がり、個々のつながりができ始めています。回数を重ねる中で、「シャンパンタワーの法則」という言葉が頭に浮かびました。地域づくりに取り組みたい気持ちはあるけれど、余力がなかったり行動に移しづらかったり、あるいは自事業所だけでは取り組めなかったり、それぞれ様々なジレンマを抱えています。しかし、自分がカラカウの状態だと、周りの人に笑顔で接することや、相手のためになる働きかけは難しく、まずは自分を満たすことが必要です。『法典サポートネットワーク』に参加された方々が、ほっとしたり、心地良い刺激を受けてやる気を取り戻したり…安心、安全な場として、参加された方々が笑顔で地域づくりに向かっていくための推進力になりたいと考えています。



『大好きな事・自分に出来る事 楽しんでかんばんってます』

個別の活動や集団でのグループ活動など、各事業所にて様々な取り組みが実施されています。今回はその活動から、個人に焦点を当てて紹介したいと思います。それぞれ、チャレンジ精神をお持ちの4名のご利用者を紹介したいと思います。(写真や記事の掲載についてご同意を頂いております。)

誠光園 石川美奈 様



子どもの頃から絵を描くことが大好きで、現在も水彩画やクレヨン画、絵手紙など様々な絵を描かれ作品展に出展されています。絵を鑑賞された方から「譲ってほしい」と声が掛かるほど素敵な作品です。その他にも季節やイベントに合わせて折り紙作品を玄関先に飾ったり、職員のお子さんにプレゼントをして下さいます。最近では楽譜を購入され毎日ピアノ演奏にも励まれ、様々なアートにチャレンジしています。



アトリエ プレジュ 石戸貴斗 様



令和3年9月よりアトリエ プレジュを利用し始めた石戸さんは、現在23歳。利用の目的は自宅での生活を基本に、日中活動の場で何事にもチャレンジしたいとの思いからでした。利用当初は、様々な場面で介助が中心でしたが、現在はお茶を飲む際やデザートなどの食事を食べる時、歯磨きなどもご自身の右手を使い、出来るところまで行っています。

リハビリでは、立位保持の訓練を行い、健康的に過ごしながら毎日意欲的に活動に励んでいます。



挑戦

壱番館 藤英充 様



藤さんは生まれつき下肢に障害のある方ですが、人と関わる事を好み、新しい事に挑戦する事が好きな方です。身体を動かすことも大切にしており、ここ数年は「ポッチャ」をライフワークにしています。ポッチャはパラリンピックの正式種目となっており、施設においてもサークル活動として船橋ポッチャ協会の皆さんから指導を頂きながら活動を行っています。千葉県でも毎年千葉県ポッチャ選手権大会が開催されており、藤さんは毎年代表選手として参加しています。代表選手になるためには施設内で実施されるトーナメント戦に参加し、上位の成績になる必要があり、サークル活動などに真剣に取り組みながら技術向上に取り組まれており、令和7年度の千葉県大会出場目指して頑張っています。



オーヴェル 正宗宏之 様



正宗さんはオーヴェルのご利用を“授業”と捉え、日常生活の動作一つひとつがリハビリテーションという考えで生活されています。5年ほど前からご本人が特に力を入れて取り組んでいるのがさき織です。糸の配色は、季節を意識して決めているそうです。

出来上がった作品は、お世話になっているお友達に日頃のお礼としてプレゼントしています。「友達からの喜びの声を電話で聞き、送られてくる写真を見ることがとてもうれしい」「明日の授業もお願いします」と日々意欲的に過ごされています。



【 地域の皆さんに支えられて 】

ヴェルフ藤原デイサービスセンターでは、ボランティアの受け入れを積極的に行っています。なぜなら、交流によってご利用者の皆さんがとても喜ばれること、コロナ禍を経てボランティアの皆さんの活躍の場が減少してきた中で活動の場を提供できること、それらが施設と地域を繋げる良い機会だと思うからです。現在は、これまでのフラダンス・ハーモニカ演奏、手品など発表をしていただく他、利用者参加型の習字、絵手紙、創作のお手伝いにも来ていただいています。また、傾聴ボランティア、学生ボランティアなど、年齢やジャンルにとらわれず多岐にわたる活動の受け入れを行っています。ボランティアの受け入れで私たちが大事にしていることは、発表していただく内容を一緒に考えることです。デイの担当者、ボランティアの方とで打ち合わせを行い、ご利用者のニーズに合った内容を提案し、検討を重ねて発表する内容を決めています。発表時に職員も一緒に披露したり、盛り上げたりすることでデイサービスのご利用者に喜んでいただける内容を共同で作上げることがとても重要な事だと考えています。

そのような中で、様々な施設等でボランティア活動をしている方々からも、「ここにまたボランティアに来たい。楽しかった。」とお話をいただく場面もありました。このようなお言葉をいただくと、私たちもとても嬉しく思い、遣り甲斐を感じます。施設に来ていただき、一緒に作りあげ、ご利用者の様子や職員の雰囲気や皆さんに見ていただけることは、私たちにとってとても貴重な機会であり、「デイサービスとはどのような施設なのか」知っていただくことができ、相互理解が深まったとも実感しています。それだけではなく、職員も「おもてなし」や「マナー」の部分が身につく、ご利用者ご家族への接遇や、技術が磨かれていきます。ボランティアさんの発表から刺激をいただき、日々のレクリエーション活動や行事活動のアイデアになったり、職員としての成長に繋がっていると思います。福祉施設のイメージがここに来て変わったというお話もありました。「こんなに雰囲気が明るくて利用者が楽しそうにしているデイサービスだったら、私たちも必要な時になったら利用したい。そして周りの必要な人たちや近隣の人に広めたい」というあたたかいお言葉をいただき、これまで積み重ねてきた取り組み、地域との関わりが認められたように感じました。このお言葉を沢山のボランティアの皆様からいただけるようにこれからも努めてまいりたいと思います。ご興味のある方は、是非一度ご連絡ください！いつでもお待ちしております。



【 新たなお縁 】

令和7年1月29日に、千年杉建設株式会社様による重機体験が催されました。重機体験では保育園や幼稚園、小学校の児童を対象に、重機（小型ショベルカー）の操縦体験をすることができます。千年杉株式会社様とは、当園前の道路工事でお世話になったことから、重機体験のお話を頂きました。

当日は3歳児、4歳児、5歳児の56名が技術者の皆様のご指導のもと、実際に重機に乗り、レバーを操作し、バケットでカラーボールをすくって、かごからもう一つのかごに移す作業を体験することができました。日頃から図鑑や絵本を見たり、ミニカーで遊んだりして、はたらく車に親しんでいる子どもたちは、間近で見ることだけでも、「すごい!」「大きい!」と大興奮。ヘルメットを被り、自分の操作で実際に重機が動き出すと、「おお!」と感動しつつ、真剣な表情で操縦していました。はたらく車を近くで見るとはあっても実際に操縦させて頂くことは中々ないので、貴重な体験の機会を頂けて、子どもたちだけでなく保護者様も喜んでいました。私も体験させて頂きましたが、自分の操縦で重機が動いた瞬間の何とも言えない高揚感と、操縦の難しさを体感し、技術者の皆様の凄さを感じました。記念品として、ヘルメットやボール、重機の玩具やノートなどたくさん頂き、それぞれ大切に使用させて頂いています。

今回、千年杉株式会社様のご厚意により、重機体験というとても得難い体験をすることができ、子どもたちからも「楽しかった!」「もっとやりたい!」などの声が聞かれ、大変有意義な時間となりました。お忙しい折にも関わらず、子どもたちの為に重機体験を催して頂いた千年杉株式会社様に感謝申し上げます。今後もこのような地域との繋がりを大切にしたい保育をし、地域共生社会を目指していきたくと思います。



令和6年度 ご寄付・ご祝儀一覧

令和6年9月1日～令和7年2月29日に法人各施設にご寄付及びご祝儀をいただきました皆様です。ありがとうございました。
※事前にご承諾いただきました方のお名前を掲載させていただいております。そのほか2名様にご寄付いただいております。
ご寄付いただきました全ての皆様に御礼申し上げます。

ご寄附	ご寄附	ご祝儀	ご寄贈	協賛品ご提供
中澤 紀子 様	故 阿部 英男 様	富士見下町内会 様	坂本 瑞穂 様	—
望月 昌子 様		法典中央町会 様	中村 雄仁 様	
菅野 清子 様		(株)レイズウェイ 様	鈴木 世津子 様	(順 不 同)
松本 勇治 様				
田島 逸子 様				

